

主要事業概要		対象年度	令和 4年度		担当部署	道路課				
		事務事業名	道路維持管理事業			事業期間	継続			
事業性質	<input type="checkbox"/> 主要事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略		<input type="checkbox"/> 行財政改革					
予算科目	会計	01 一般	款	08 土木費	項	02 道路橋梁費	目	01	道路橋梁維持費	

事業費内訳 (単位: 千円)	R 3決算額	R 4決算額
道路維持管理に要する経費		180,013
事業費計		180,013

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

(1) 目的

本事業は、かすみがうら市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、市が管理する道路橋梁の適切な維持管理を行う。

(2) 工事・委託件数

- ・ 橋梁補修工事 (境橋・新山橋・殿内橋) 3橋
- ・ 橋梁補修工事積算業務 (境橋・新山橋) 2橋
- ・ 塗膜調査業務 (境橋) 1橋
- ・ 塗膜片等処分 (境橋) 1橋
- ・ 橋梁点検 (一般橋30橋) 30橋

【橋梁修繕工事 (境橋) 上土田地内】



補修前

(3) 工事・委託費

- ・ 橋梁補修工事 33,960,800円
- ・ 橋梁補修工事積算業務 968,000円
- ・ 塗膜調査業務、塗膜片等処分 3,518,680円
- ・ 橋梁点検 9,680,000円



補修後

【地方創生総合戦略の取組内容】

【行財政改革の取組内容】

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	補修箇所数/補修計画実施件数	橋	目標	3	3	3
			実績	4	3	-
総合戦略 成果指標 (KPI)			目標			
			実績			
行財政改革 成果指標			目標			
			実績			

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	市民の生活や経済活動を支えるために、橋梁を安全に維持管理する必要がある。					
	有効性評価	事業成果	高	橋梁が損傷すると通行に支障が生じ、大きな損害が発生する。そのために事前点検・修繕を行うことで安全を確保することができる。					
	効率性評価	経費削減	無	法令点検に基づいた修繕計画であり、安全性に関わる老朽化対策であるため削減余地はない。					
	課題	橋梁の老朽化は今後も進んでいくことが想定され、これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防保全的な老朽化対策に転換することで橋梁の長寿命化を図り、予算の平準化と維持管理コストの削減を行う必要がある。							
	部署内評価	橋梁点検・修繕においては、新技術の活用を検討し、費用削減や点検の効率化を図り、適切かつ継続的な維持管理を実施する必要がある。				評価結果	B	昨年度結果	
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実施行程進捗 (全体評価)			目標到達度				
	成果と評価					評価結果		昨年度結果	
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実施行程進捗 (単年度評価)			目標到達度				
	成果と評価 (令和4年度)					評価結果		昨年度結果	
総合評価結果	内部評価	今後、橋梁等の道路施設の維持管理・更新費の増加や将来の人口減少が見込まれ中、老朽化が進行する道路施設に対応するため、新技術の活用及び長寿命化修繕計画の更新を図り、予算の平準化と維持管理コストの削減を検討しながら長寿命化対策を推進されたい。				内部評価結果	B	昨年度結果	
	外部評価					外部評価結果		昨年度結果	

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	継続	道路橋梁を適切に維持管理し安全性を確保する必要があるため			
	改善方策	情報収集や新技術の検討を通じて柔軟な見直しを行い、事業実施を進めていく。					
	方向性	新技術を取り入れ、計画的かつ効率的に橋梁点検・修繕を実施し、橋梁の安全を確保する。					
総合戦略	次年度取組計画						
行財政改革	次年度取組計画						
指摘事項	内部評価	第2期の市橋梁長寿命化修繕計画に基づき実施する点検・修繕に、補助事業及び新技術を十分活用し、橋梁に係る長寿命化を計画的に進めていく。					
	外部評価						

主要事業概要		対象年度	令和 4年度	担当部署	道路課			
		事務事業名	市道整備事業			事業期間	継続	
事業性質	■ 主要事業		□ 総合戦略	□ 行財政改革				
予算科目	会計	01 一般	款	08 土木費	項	02 道路橋梁費	目	02 道路橋梁新設改良費

事業費内訳 (単位: 千円)	R 3決算額	R 4決算額
市道整備に要する経費		317,270
事業費計		317,270

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

概要：通学路の整備及び傷んだ舗装の補修並びに冠水対策を実施する。

効果：市道における市民の安心安全が確保され、通行性の向上や利便性を図ることができる。

(1) 工事契約件数

- ・道路改良工事 4件
- ・道路舗装新設工事 1件
- ・道路舗装補修工事 12件
- ・道路排水整備工事 3件
- ・その他 1件

※その他は、「つくば霞ヶ浦りんりんロード整備工事」

(2) 工事契約額 (うち令和4年度執行額)

- ・道路改良工事 100,512,500円 (51,834,700円)
- ・舗装新設工事 11,122,100円 (11,122,100円)
- ・道路舗装補修工事 112,250,600円 (112,250,600円)
- ・道路排水整備工事 39,615,400円 (39,615,400円)
- ・その他 1,982,200円 (0円)

※未執行額については、令和5年度に繰越

(3) 工事実績

- ・道路改良工事 L=262.1m
- ・道路舗装新設工事 L=461.3m
- ・道路舗装補修工事 L=2941.4m
- ・道路排水整備工事 L=454.8m

【市道8-0868号線排水整備(下稻吉地内)】



整備前



整備後

【地方創生総合戦略の取組内容】

【行財政改革の取組内容】

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	工事発注数/工事計画件数	%	目標	100	100	100
			実績	100	105	-
総合戦略 成果指標 (KPI)			目標			
			実績			
行財政改革 成果指標			目標			
			実績			

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	市民の生活に直結している市道の整備であり、必要性は高い。					
	有効性評価	事業成果	高	安全で安心な道路環境が整備され、事業成果が多いに期待できる。					
	効率性評価	経費削減	無	最小の経費で最大限の効果を発揮するよう現場条件に合った適切な工法が検討されている。					
	課題	限りある予算の中でより多くの市道を整備するため財源確保が一番の課題であるが、今後、生産年齢人口がさらに減少することが予想されており、国ではICTの活用を推進していることから、当市においても積極的にICTを普及させていくことが課題である。							
	部署内評価	限られた予算の中で多くの市道整備を実施するため、補助金や交付金を最大限に活用し一定の事業成果を出している。今後は様々な社会情勢を踏まえた上で関係部署との連携を図りながら、長寿命化を基本とした維持管理により力を入れる必要がある。			評価結果	昨年度結果	B		
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実施行程進捗 (全体評価)			目標到達度				
	成果と評価					評価結果	昨年度結果		
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実施行程進捗 (単年度評価)			目標到達度				
	成果と評価 (令和4年度)					評価結果	昨年度結果		
総合評価結果	内部評価	市民要望の多い事業であるが、整備路線の必要性・緊急性・地元の協力体制・関係機関との連携など総合的に整備路線の優先順位や予算規模を勘案しながら市道整備を進めている。また、補助金や交付金も積極的に活用されており、引き続き財源を確保しながら計画的に事業を推進されたい。			内部評価結果	昨年度結果	B		
	外部評価					外部評価結果	昨年度結果		

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	継続	市民生活の向上や市の発展に必要な事業である。		
	改善方策	維持修繕に関しても力を入れる必要があり、路面性状調査を実施した上で道路舗装維持修繕計画の見直しを行う必要がある。				
	方向性	長寿命化を基本とした上で、通学路や生活道路、道路冠水箇所の市道整備を実施する。				
総合戦略	次年度取組計画					
行財政改革	次年度取組計画					
指摘事項	内部評価	補助事業の検討を行うと共に、市内全体の平準化及び優先箇所などを含めて計画的に進めていく。				
	外部評価					